



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/09/06

携拳深掘りシリーズ #1
世界で初めて携拳されたエノク

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

^o.^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*

お元気ですか。高原剛一郎です。私は3週間ほど、聖書伝道旅行で関東を周って来ました。色んなところに行くと出会いがあるんですね。出会いとは“出て行って会う”。だから出会い。旅に出かけると、思いがけない方との出会いがあって、私はそれを非常に楽しみにしているのです。

その出先で、カトリック教会にもう20年以上通っておられるという非常に知的な女性が、わざわざ面会に来てくださいました。日本語・韓国語・英語の3つの言葉が自由にできる才女の方。こう言われたんです。

「高原さんの動画を見ていると、**携拳**という言葉がよく出て来ます。でも、携拳という言葉は聖書の中に1回も登場しませんね。これはプロテスタント独特の教理で、聖書が普遍的に語っていることではないのではありませんか。私は20年以上カトリック教会に集っていますが、携拳の話は1回も聞いたことがありません。携拳はファンタジーなのか。危ないカルト的な考えなのか。あるいは聖書が本当にそう言っているのか。その点について教えてください。」

非常に謙遜な方だったので、何人かのクリスチャンたちと一緒に聖書をひも解きながらお話ししたんですが、良い時間でした。彼女は「メモしきれなかったので、よければYouTubeでもう一度アップしてください」と。それで、今日させていただきます。

携拳とは、ある時イエス・キリストが、地上にいるクリスチャンたちを天に引き挙げることです。携え挙げる。

神／イエス・キリストがクリスチャンを手に携えて、地上から天に引き挙げること。その瞬間、地上にはクリスチャンがゼロになります。

それは一瞬で起こるので、その瞬間に気づく人は誰もいないでしょう。

それは艱難時代の前に起こり、そして、いつでも起こり得ることなんです。

これはプロテスタント独自の考えなんでしょうか。あるいは、聖書が前々から繰り返し語っていることなんでしょうか。実は、聖書がずっと語り続けていることなんですね。

聖書全体を見ると、旧約聖書で既に二人の人物が、携拳で天に引き挙げられている実例があるんです。新約聖書には、2種類の人々が携拳されるという約束が書かれています。新約聖書の約束はまだ実現していませんが、旧約聖書の携拳は既に実現してるんです。そこで、しばらくの間、携拳をシリーズでお話ししたいと思います。今日は、携拳された第1号の人物**エノク**について考えましょう。

創世記 5 章 22 節-24 節

エノクはメトシェラを生んでから三百年、神とともに歩み、息子たち、娘たちを生んだ。エノクの全生涯は三百六十五年であった。エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。

ここから、①エノクはどんな人か。②エノクの最後はどうなったのか。③エノクがいなくなった後、世界にどんなことが起こったのか。
この3つのポイントでお話します。

①エノクはどんな人だったのか。

24 エノクは神とともに歩んだ。歩んだはヘブライ語でイットハレッフ。発音はヘブライ語でちゃんと聞こえているか分かりませんが。これと同じ言葉が、同じ創世記に登場します。

創世記 3 章

8 そよ風の吹くころ、彼らは、神である主が園を歩き回られる音を聞いた。

神である主が園を歩き回られる。この歩き回るはミットハレッフ。

イットハレッフとミットハレッフは同じ語根です。意味は歩調を合わせて歩く。対話する・会話する意味を含んで、同時に歩むことです。それを神とともに歩んだ。「エノクは地上で神と交わりながら、対話しながら人生を歩んだ人でした」と言っているんです。エノクは神を信頼する人、神を信じる人だったんですね。

②エノクの最後はどうなったのか。

エノクは病気で死んだのでしょうか。寿命で死んだのでしょうか。事故に遭って死んだのでしょうか。いいえ。死ななかつたんです。死を経験しないで天に引き挙げられたんですね。なぜそう言えるのか。

24 神が彼を取られたので、彼はいなくなった。

取られた。命だけ取られたのなら、エノクの死体・遺体が地上に残りますよね。しかし、彼はいなくなった。これは、見えなくなったということなんです。彼は肉体もろとも、この世界から消えたんですね。天に引き挙げられたんです。この記事は、新約聖書ではどのように書いているのでしょうか。

ヘブル人への手紙 11 章

5 信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。神が彼を移されたので、いなくなりました。彼が神に喜ばれていたことは、移される前から証しされていたのです。

死は分離です。体と魂が分離していくことが死です。死を見ることのないように移された。死を見ることのないというのは、体と魂が分離しない状態で、一度も死を経験せずに、肉体を持ったままで天に挙げられたということ。これが携挙です。

そして、彼こそが人類史上第 1 番目に携挙された人物なんですね。

③エノクがいなくなった後、世界にどんなことが起こったのか。

エノクには息子メトシェラがいました。969 歳まで生きたんです。

メトシェラが死んだ年に、**ノアの大洪水**があったんですね。

逆に言うなら、エノクは“全世界を覆った大洪水の裁きに遭わないように、その水の艱難から救い出されるように携挙された”ということです。

もちろん、この大洪水をくぐって救われた人たちもいますよ。ノアの家族たち。

艱難時代を通して救われる人たちもいますが、艱難時代を見ないで救われる人たちもいるんですね。エノクは教会／クリスチャンたちのひな型だと思います。

ところで、エノクが突然姿を消した時、人々はどう思ったでしょう。

おそらく普段から、エノクが何か違う価値観・世界観で生きていたことが分かってたんじゃありませんか。地上のことばかり追いかけている人は、「風変わりな人だな。神とか天とか、そんなものに約束や希望を抱いているって変人だな」と思ったかもしれません。しかし、彼が神に取られて突然いなくなった時、自分たちの人生を吟味せざるを得なくなったのではないかと思います。

携挙は人生を真剣に考えさせる契機になり得るものなんですね。

皆さんはいかがですか。キリストの携挙を迎える準備ができていますか。

イエス・キリストを信じる人は、だれもが携挙に与ることができます。

ぜひイエス・キリストを信じてください。

チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。

皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

引用文献；新日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017